

平成22年度学校評価

1 学校教育目標

平成22年度熊本県教育委員会の“教育指導の重点”及び“人権教育取組の方向”に則り、本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと生徒、保護者及び地域住民に信頼される学校となり、いかなる時代にあっても誠実な人間性を有し、社会に対して使命感を持った人材を育成する。

2 本年度の重点目標

本校教育目標を踏まえ、具体的には、

- (1) 社会規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立
- (2) 進路意識の高揚と進路目標の早期確立
- (3) “生きる力”としての基礎学力の定着
- (4) 部活動の活性化と地域に根ざした学校行事の推進
- (5) 互いの人権を尊重しあう心の教育
- (6) 個性を生かす特色ある学校づくりと中高連携の推進

3 自己評価総括表

	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校 経営	本校の教育方針・学校教育目標を周知する。	本校教育への理解の推進及び学校評価の向上	年2回の保護者会を実施する。地域との連携強化を図る。	育友会総会及び秋季保護者会を開催するとともに、保護者による学校評価を実施する。	B	育友会総会の出席率は、欠席者集会を含め94.7%であり、高い数値であった。秋季保護者会の出席率は56.1%で、参加者を増やすため、欠席者集会の実施を今後検討する。
	開かれた学校づくりに取り組む。	公開授業の推進	公開授業を実施する。	教務部が企画立案し、一学期に実施し、学校全体で取り組む。	A	例年以上に、他校や中学校からの参加者が多く、授業を参観しての多くの指摘を受け、各自の授業の向上につながった。
		学校行事や授業参観者数の増加	保護者・地域住民・近隣中学校教諭等の本校行事や授業参観への参加促進を図る。	育友会役員と協力して保護者の参加者数を増やす。中学生の体験入学の実施、民生委員との懇談会や中高連絡会における授業参観を実施する。	B	育友会総会及び秋季保護者会に授業参観を実施し、参加促進を図ったが、参加人数は少なかった。体験入学については、例年とほぼ同じ人数の参加者が参加し、学校をPRすることができた。
学力 向上	「生きる力」としての学力向上に取り組む。	基礎基本の定着の徹底	各教科で数値目標を立てて取り組む。	各教科で基礎基本のチェックを試験などで実施する。	A	各教科で小テストを実施するなどの創意工夫が見られ、基礎基本の定着が図れており、進路マップの偏差値が向上した。
		分かりやすい授業づくり	研究授業週間を設定して教育力の向上を図る。	教務部が企画立案し、一学期に取り組み、全教師が研究授業を実施する。	B	今年度は、生徒の理解を深める視点で、4人の教師の研究授業を実施し、分かりやすい授業の研究に有意義な取り組みとなった。
		充実した習熟度別授業の推進	生徒の学力に応じた対策を図る。	生徒の実態に応じた授業や工夫改善した教材・教具を用いた授業に取り組む。	A	生徒の実態に応じた授業の創意工夫が各教科で見られ、生徒の学力を高めるのに効果的であった。
		シラバス活用の推進	授業中における積極的な活用を図る。	授業進捗の確認と定期考査への目標設定をする。	B	予定よりも若干進捗が遅れる教科もあったが、全教科ほぼ計画通りに実施できた。
		学習時間を伸ばす	生徒の学習時間を2時間以上にする。	教務部が中心となって予習復習に取り組むとともに、年間6回以上の学習時間調査を実施する。	B	計画どおりに学習時間調査を実施し、生徒に家庭学習の習慣づけを行なうことができた。学習総時間数の若干の伸びは見られたが、2時間以上という目標の達成までは到達していない。
指導	教職員全体として進路指導に取り組む体制の整備を図る。	効果的な進路指導体制の充実	進路検討会を年間3回以上実施する。	生徒一人ひとりの進路指導の在り方を学校全体で検討し、教職員間で指導方法の共有を図る。	A	生徒及び保護者との面談や職員による進路検討会を定期的実施し、生徒の学力及び進路希望を把握するとともに、指導方法についても検討することができた。
	進路目標の達成に取り組む。	進路目標の達成	生徒全員の進路目標が達成されるように支援体制の充実を図る。	進路希望に対応する課外、面接指導、作文・小論文対策を個別に実施する。	B	進路希望に対する課外や面接指導は予定どおり実施できた。今後個別の小論文対策の充実を図るとともに、学校行事（総学）とリンクした小論文指導を検討したい。
	進路意識高揚のためのキャリア教育の充実に取り組む。	職業意識の向上	勤労観や職業観を身につけるための進路行事を実施する。	進路部が企画立案し、インターシップや進路講演会・進路ガイダンス等を実施する。	A	勤労観や職業観を身に付けるためにインターシップや進路ガイダンス等を実施し、事後アンケートの結果からも進路意識の向上

						につながった。
生徒指導	本校の生活指導方針を周知する。	本校の生活指導への理解の促進	年間を通じて生活指導方針の周知徹底を図る。	年間2回、保護者会での説明を実施する。月初めの全校集会で生徒指導部の講話を実施する。	B	年間2回予定どおり、保護者へ説明を行った。毎月全校集会で生徒指導部講話を実施した。HR、部活動及び長期休業前にも指導を行い、生徒指導方針を徹底した。
	社会規範意識及び基本的な生活習慣を身につける。	校則遵守の徹底	校則を遵守する生徒の育成を図る。	時と場面に応じた挨拶、時間厳守、服装の徹底に取り組む。	B	月1回の服装検査を実施し、不合格者は再検査・再々検査を行った。眉を整える者が数人おり、今後は学年・教科担任・生徒会・委員会・部活動などあらゆる場面で指導できる体制をつくっていく。
	交通安全意識の高揚を図る。	交通安全意識の啓発	交通講話の実施や講習会・原付の競技会への参加を促す。	年1回の交通講話を実施する。原付の競技会や原付実技講習会に参加し、交通安全の意識を高める。	B	交通安全教育に関する講話の実施やワークショップ型の班別協議を行い、交通安全に関する認識を深めた。原付免許取得者全員が実技講習会及び原付競技会に参加することで交通安全の意識を高めた。
	ボランティア活動の推進に取り組む。	自主的なボランティア活動への参加促進	地域、校内ボランティア活動への参加を図る。	小中高ボランティア活動を年2回実施する。毎朝の清掃活動・挨拶運動に取り組む。町内花いっぱい運動に参加する。	B	小中高によるボランティア活動及び花いっぱい運動を予定どおり実施した。毎朝7時10分から清掃ボランティア活動を実施したが、参加する生徒がやや減少した。
	保護者や地域住民との連携した生徒指導に取り組む。	より強固な協力体制の構築	情報交換をすることによって協力体制を作る。	生徒一人ひとりの学校での状況について保護者へ連絡を密にする。民生委員との連絡会を年1回実施する。	B	学校からの指導や支援が必要な場合は、その都度保護者へ連絡し、学校・家庭間で情報の共有化を図ることができた。民生委員との連絡会を年1回実施し、お互いに情報交換し指導に生かすことができた。
人権教育の推進	互いの人権を尊重しあうための人権意識の高揚を図る。	人権教育の推進	人権への配慮が、生徒の態度や行動に現れるようにする。	定期的に人権教育推進委員会を実施し、学期に1回人権教育及び研修会を実施する。	B	定期的に人権教育推進委員会を実施し、各学期に1回、人権教育に関するLHR及び職員研修を実施した。実施内容の工夫や参加型の研修体系が求められる。
		いじめ防止の徹底	いじめをしない起こさせない態度を育成し、いじめ発生件数を0にする。	いじめアンケートを年2回実施し、いじめ防止に関する授業への活用を図る。	B	いじめに関するアンケート調査結果から、友だちから無視をされるなどの事案があったことが判明した。3学期はクラスの落ち着きや仲間意識の連帯感が見られ、いじめ根絶に向けて大いに前進している。
教育課程	生徒の学力や体力の状況を把握し、それを踏まえて各向上に取り組む。	学力や体力の状況を踏まえた教育課程の推進	学力や体力の分析結果を踏まえた指導を行う。	各考査の結果やスポーツテストの結果を徹底分析及び改善して学力や体力の向上を図る。	A	各考査の結果をもとにして、各教科において分析がなされ、次回の考査に向けての工夫や改善に向けた取り組みが行われた。
	図書室の積極的利用や、読書活動の推進を図る。	意欲的な読書の推進	図書室の利用促進や生徒1人当たりの貸出冊数の増加を図る。	各教科と連携して図書室の利用回数を増やす。朝読書の推進を図る。	B	図書館だよりの発行や、文化祭での図書委員の発表を行うなどして、図書室の利用促進を図ったが、利用回数は昨年とほぼ同数であった。
保健管理	健康管理の充実に積極的に取り組む。	健康管理に対する意識高揚	保健だよりを毎月発行する。	保健部と保健委員が協力して保健だよりを作成し、毎月配付する。	A	保健部と保健委員が協力し、ほぼ予定どおりに毎月の保健だよりの発行を行うことができ、健康管理に対する意識高揚が図れた。
	喫煙・薬物乱用防止や性教育の推進に取り組む。	規範意識に基づく健康意識の育成や性教育の啓発	年1回以上の講演会を実施する。	喫煙・薬物乱用防止、性教育の講演会を実施する。	A	喫煙・薬物乱用防止、性教育のそれぞれの講演会を予定どおり実施し、当初の目的を達成することができた。
安全管理	学校防災計画等の作成・実施、体制整備の推進に取り組む。	学校防災計画等の作成、防消火訓練の実施や体制整備の推進	防消火訓練、避難訓練を年1回実施する。	総務部が企画立案し、避難訓練及び消火訓練を学校全体で取り組む。	B	天候に恵まれなかったが、体育館を使用しての通報訓練・避難訓練及び消化訓練を実施した。職員が不足するため、担当が重複していることが課題。
	安全点検(校内点検や通学時の安全など)や、教職員・生徒の安全対応能力の向上に取り組む。	校内における危険箇所の改善	校内安全点検を実施する。	保健部が企画立案し、校内の安全確認を全職員で実施する。	C	安全点検は実施したが、点検結果を改善に結びつけることができたかどうかの確認が不十分であった。
		規範意識や安全意識の高揚	生徒の登校指導を実施する。	毎日の校門での登校指導及び年間2回以上の通学路での登校指導を実施する。	B	予定どおりに登校指導を実施できたが、計画された時間帯に登校する生徒が少なく、安全意識の高揚につながったかは疑問。
特別支援	特別支援教育のための校内支援体制	特別支援教育の充実	校内研修を年1回実施する。	全教員で個別の指導計画を立て研修を実施して、指導力	B	事例検討会の校内研修を実施し、職員間で支援内容の共通理解が図れた。校内四年体制の

教育	の整備に取り組む。			の向上を図る。		整備や個別の支援及び指導計画内容の充実が課題である。
組織運営	各役割を自覚した教職員間の協力・連携の強化に取り組む。	情報の伝達や各教職員の連携が有効に機能している。	学校行事などのスムーズな企画立案及び実行ができる。	各部や学年及び運営委員会や職員会議のスムーズな運営を行う。	B	各部会での会議や職員会議などにおいては、スムーズな運営がなされたが、職員の多忙さの影響か、企画立案が職員会議ぎりぎりになる行事もあり、改善の余地もある。
研修	校内研修における適切な課題の設定等、研修の充実に取り組む。	教育力向上に繋がる研修の推進	参加型の研修を年間6回以上実施する。	具体的事例を基に教職員の参加型研修や教育課題に対応した研修を月に1回程度実施する。	B	不祥事防止研修など、年間計画どおりに実施できた。今後、その他の適切な課題に対する研修の実施や参加型研修への改善などの検討が求められる。
教育環境整備	学習・生活環境の充実に取り組む。	学習環境の整備	生徒・教職員全員で校内美化に努める。	毎日の掃除に加え年間6回以上の大掃除、除草作業を実施する。また毎朝の清掃ボランティアを実施する。	A	予定どおりに清掃活動を実施した。また、今年度より職員による清掃作業を始め、環境整美に努めた。清掃箇所が広いため、今後、効率的な作業が求められる。
情報提供	学校での最新の教育活動の情報を公開する。	教育活動の情報公開の促進	倉校新聞を発行し、本校のアピールを行う。育友会総会や秋季保護者会で情報提供を実施する。	月に1回以上の倉校新聞を発行する。育友会総会や秋季保護者会において各部ごとに詳細な情報提供を行うよう努める。	B	倉校新聞については、内容を充実させるために2ヶ月に1回の発行に変更した。作成方法や更なる内容の充実については、今後検討の余地がある。育友会総会や秋季保護者会においては、保護者に十分な情報提供をすることができた。
			ホームページの更新	更新をすみやかにし、情報提供を行う。	C	年度初めの更新はできなかった。適宜更新を行う必要がある。
保護者・地域住民との連携	地域との交流を図る。	地域の行事への参加	年間1回の参加	倉岳ウオークラリーなどの地域の行事へ参加する。	A	ボランティアで倉岳ウオークラリー及び倉岳ふるさと祭りなど地元の行事に多くの生徒が積極的に参加した。
	特色ある学校づくりのため保護者・地域住民との連携の推進を図る。	学校行事への保護者や地域住民の参加及び協力の推進	海の運動会(マリフェスタ)において保護者や地域住民との連携を図る。	運動会準備における保護者の協力、大漁旗パレード・地引き綱における地域住民の協力を得る。	B	マリフェスタや秋桜祭等で、保護者や地域の方と連携し、充実した内容を実施することができた。今後は学校規模も鑑み、内容の精選が課題である。
	地域の意見を取り入れた学校運営に取り組む。	地域の意見を活用して学校改善の推進	年間2回の教育懇話会を実施する。	教育懇話会での意見を教職員間で共有し次年度の改善を行う。	B	教育懇話会で出された意見を取り入れ、特色のある学校づくりに生かそうとしている。

4 学校関係者評価

- (1) 進路面において国立大学の合格者を出すなど、生徒一人ひとりの進路目標の実現のため、教職員がよく指導している。
- (2) 中高連携のあり方について、中高合同の研究授業及び合評会を行うなどの工夫がほしい。中高合同の持久走大会だけでなく、中高連携のあり方について他校を参考にしながら実施できそうなことについては検討してもらいたい。
- (3) 生徒へのアンケート調査から、生徒が悩み事についてを進んで教師に相談できていないとの結果が見られる。次年度は、教育相談体制を整備するとともに、面接週間を設けるなど、教師と生徒とのふれあいの時間の確保も検討してもらいたい。
- (4) 分校となり教職員数が減っており、教師の負担感が増している。部活動数の削減や行事の精選を行い、身の丈にあった行事の見直しを行う必要がある。

5 総合評価

- (1) 教職員の自己評価、保護者による学校評価、生徒による自己評価、学校評価を行い、それらを総合的に判断し、学校評価を行った。年度初めに掲げた目標は、不十分な点もあるが、概ね達成できている。
- (2) 職員が少ないゆえ業務の細かいところまで手が回らない状況にある。特に年度当初は仕事量が多く、少ない職員のため十分な対応ができていない。業務の精選が必要である。
- (3) 学期毎の反省や年間反省会を実施しており、速やかに現在抱えている課題を明らかにし、課題の解決や業務改善につなげている。
- (4) 生徒アンケート調査結果から、生徒は教師の部活動の指導する時間を増やしてもらいたいとの期待が見られる。次年度からは、教師の業務総量を勘案し、教師への過度の負担にならないよう担当業務の見直しを進め、部活動生徒を指導する時間の確保に努めたい。

6 次年度への課題・改善策

- (1) 年度初めに立てた目標を概ね達成したが、教職員の負担軽減を図りながら、魅力ある学校づくりを推進するため、全体の力配分を再検討し、行事の精選を進めていく必要がある。
- (2) 新たな気持ちで全力で校務に当たれるよう、休業日の行事を削減させ、平日に学校行事を実施するなどの行事の日程の設定の見直しも必要である。
- (3) 小規模校のため、ホームページの更新やネットワーク環境に長けた職員がおらず。天草高等学校の協力を得ながら改善を図りたい。
- (4) 部活動の活性化については、生徒数の減少により、予算配分も厳しい状況であり、部活動数の削減を図り、重点的に指導を強化したい。